

# 「平成」30年を振り返る

30年間続いた「平成」もあとわずかとなりました。その歩みを年表と写真で振り返ります。新元号となっても、当院は「市民による、市民のための」病院として地域医療に貢献してまいります。

## 病院に関する主な出来事

## 愛媛県に関する主な出来事



北(N)棟完成(平成6年)



北(N)棟落成記念祝賀会(平成6年11月22日)



旧南(S)棟増改築工事完成記念式典(平成13年11月26日)



新(S)棟第2期工事(平成26~27年)



新(S)棟完成(平成27年)

歯科新設、透析室開設(12床)  
北(N)棟完成(計538床)

形成外科新設

歯科・口腔外科、呼吸器科、消化器科  
循環器科、リハビリテーション科新設

旧南(S)棟増改築、ICUにCCU併設

臨床研修病院指定、心臓血管外科新設

外来化学療法室開設、産婦人科休診

オーダーリングシステム導入

DPC(診断群分類別包括評価)制度導入

神経内科新設、婦人科診療再開

院内保育所「えいらいキッズ」開設

一般財団法人に移行、ER(救命救急)開設

新南(S)棟第1期オープン(計432床)

電子カルテシステム稼動

心療内科、病理診断科新設

財団創立50周年

新南(S)棟第2期オープン(計432床)

松山市民病院創立60周年

救急科新設

HCU(ハイケアユニット)新設(8床)

「松山リエール保育園」開園

心療内科から

心療内科・精神科へ変更

平成6年(1994)

平成7年(1995)

平成9年(1997)

平成11年(1999)

平成12年(2000)

平成13年(2001)

平成15年(2003)

平成17年(2005)

平成19年(2007)

平成22年(2010)

平成23年(2011)

平成24年(2012)

平成25年(2013)

平成26年(2014)

平成27年(2015)

平成28年(2016)

平成29年(2017)

平成30年(2018)

大江健三郎氏(旧喜多郡大瀬村出身)ノーベル文学賞受賞  
平成6年渇水(松山市で最大19時間断水)

国際定期航空路線(松山-ソウル便)就航

しまなみ海道開通  
とべ動物園でしろくまピース誕生

坊ちゃんスタジアム落成

芸予地震(M6.7、最大震度6弱)  
えひめ丸事故

平成の大合併  
(県内70市町村が20市町に再編)

愛媛マラソンが市民マラソンに

みきゃん誕生  
(愛媛県のイメージアップキャラクター)

バリィさんゆるキャラグランプリ1位  
(今治市PRキャラクター)

中村修二氏(旧西宇和郡出身)ノーベル物理学賞受賞  
瀬戸内しまのわ2014開催  
観光列車「伊予灘ものがたり」運行開始

「村上海賊」日本遺産に認定

えひめ国体、えひめ大会開催  
飛鳥乃湯泉オープン

西日本豪雨災害

北(N)棟から旧南(S)棟への通路(平成6年頃)



旧南(S)棟総合受付(平成24年頃)



ER開設(平成25年)



松山リエール保育園開園(平成29年)

### 医療事務部 部長 玉野 祐仁 (平成元年入職)

平成元年4月入職、あれから30年の月日が経ちました。現在の業者搬入口辺りが正面玄関で守衛室や総合受付があり、その奥に内科外来がありました。現在では考えられませんが、院内に喫煙場所も設置されていました。

当時、新館のS棟と旧館のB棟があり、B棟は手動開閉式のエレベーターだったと記憶しています。それから程なくしてB棟の解体、新病棟の建設が始まり平成6年8月に現N棟が完成しました。その頃から外来患者も徐々に増え始め、多い日には1日に外来1,200人、入院450人程の患者数となり忙しい日々でした。病床数も538床まで増えました。

時代と共に医療も変わり、更なる質の向上が求められるようになりました。平成最後の年・新しい元号幕開けの節目の年、松山の中核を担う病院として、他施設との連携強化を図り、地域住民によりよい医療を提供できるよう努めてまいります。

### 6S病棟師長 宇高 さとみ (平成2年入職)

平成の時代と共に松山市民病院に入職し、新たな元号に変わるこの時を迎えることになりました。就職当初に配属された病棟の定床数は88床、大部屋は8人部屋も混在していました。ハード面だけではなく患者層や在院日数、看護師配置数など今では考えられない環境でした。自分が歩んできた「時代」に思いを巡らせ、ワンピースの白衣とナースキャップも今は懐かしく、同僚との昔話に思わず笑みがこぼれます。

看護師として8部署の異動を経て、現在は就職当時の整形外科病棟で勤務しています。医療や看護は日々進歩しており、更なる研鑽が必要だと痛感しております。新たな元号での自分の軌跡を振り返った時に誇れるよう、当院が今年掲げるスローガンの「地域社会と共に歩む医療」を目指し、今後も励んでまいります。